



平成27年度 日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会

事務長 平山 信夫

平成27年度日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会が、5月15日、16日に新潟県湯沢町のNASPAニューオータニで開催され、当センターからは柳瀬院長、松下看護科長、平山の3名が参加しました。

本協議会は、公益社団法人日本重症心身障害福祉協会が主催し、全国の重症心身障害児者施設の施設長、看護管理者、事務長や、都道府県等の行政担当者が参加するものです。今年度は、123施設及び自治体から約360名が参加しました。

初日は、午前、開会式に引き続き、厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部の専門官による「障害児支援について」の行政説明と特別講演、午後はシンポジウムが行われました。特別講演では、「post-NICU重症児の在宅医療連携」と題して、埼玉医科大学総合医療センター小児科の田村正徳氏から、NICU/GCU長期入院児の現状、在宅医療の課題について講演がありました。超低出生体重児救命率の改善に伴い、NICU/GCU長期入院児が再び漸増傾向にあること、呼吸管理を受けながら1年以内に退院する重症児が顕著に増加傾向にあることが示され、小児在宅医療の充実のためには政策的な人的・経済的支援が求められると結ばれました。

午後は、「施設から在宅への流れの中で 重症心身障害児者施設の現状と今後の展望」をテーマに、8施設の施設長によるシンポジウムが行われました。各地域における現状と課題が浮き彫りになるとともに、在宅支援における通所、短期入所の必要性が強調され、当センターが担う役割の重要性を再認識しました。

2日目は、協会の組織である7つの専門委員会・部会からの活動報告とそれに対する質疑や意見交換などが行われました。医療問題検討委員会からは、26年度の診療報酬改定の課題を踏まえた、28年度改定に向けた国への要望状況の報告、福祉問題検討委員会からは、27年度の障害福祉サービス等報酬改定による影響と課題、国への要望の経緯などが報告され、各施設の関心も高く、多くの質疑応答が交わされました。

また、人材育成・研修委員会専門看護師研修部会からは、協会認定重症心身障害看護師の認定審査結果や、認定教育機関における問題点・課題が報告されるなど、各委員会報告について活発な協議が行われました。

そのほか、広報委員会からは、協会のホームページをリアルタイムな情報発信の道具として活用したいとの報告がありました。昨年度協会で作成した「在宅重症心身障害児者支援者育成研修テキスト」も掲載されていますので、皆さんも一度ご覧になってみてはいかがでしょうか。



協会ホームページURL：
<http://www.zyuusin1512.or.jp/>

看護の日

看護の日実行委員 井上 恭子



前日まで台風の影響で雨が降っていたため、当日まで雨が残るのではないかと心配されましたが、5月13日はイベント日和となり、実行委員は朝から皆様を無事お迎えすることができました。

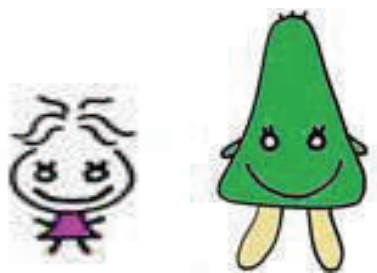
今年度のイベントのテーマは「あったかいんだから」。内容は例年の「健康チェック」のほか「褥瘡関連の体験」「ハンドマッサージ」です。その他には出入り口にアロマ、癒しのBGM、褥瘡関連のポスターと五感で楽しめるような工夫をしました。

健康チェックコーナーでは、血圧とSPO₂（酸素飽和度）の測定を行いました。

血圧測定ではご家族の方から「普段血圧が高いけどどうすればよいか」と相談されたり、SPO₂測定では病棟であまり測定した事がない利用者の方たちが測定したりしていました。

体験コーナーでは、エアーマットや枕等、褥瘡予防関連グッズをご家族だけでなく職員も体験していただきました。普段利用者が使用しているものばかりでしたが、実際体験した事で、褥瘡予防関連のグッズなどの良い所が改めて実感できたのではないのでしょうか。また職員やご家族の方が体験している間、利用者の方は昨年も好評だったハンドマッサージを受けていただいたので、特に混雑する事もなくそれぞれ体験することができました。

利用者のご家族、職員で200名近い参加があり、そのうち短期入所者と家族も2組参加していただき大盛況のうちに終了しました。今回は午前と午後に分散して来場していただいたことで、殆どの利用者の方たちをお待たせする事もなくスムーズに参加していただくことができました。これもひとえに家族会や職員の皆様方のご協力のおかげだと思っております。



4-2 バスハイク

4-2 保育士 後藤 由美子

4-2病棟、今年度最初のバスハイクは、利用者の方3名と喜多医師と一緒に、国立天文台の広大な敷地の森の一角に古民家を移築した「星と森と絵本の家」へ行きました。

ここは、子どものペースに合わせてページをめくるといふ、絵本の持つアナログ感を大切にしたところで、畳に降りて押し入れを開けたり、縁側で風を感じながら、自由に絵本を読むことができる場所です。

柱を傷つけないように気をつけながら「こんな本があるよ」「面白いね。きれいだね」と、あれこれ手に取って見たり読んだりしました。庭には、竹馬、ハンモックや井戸などがあり、田舎のおばあちゃんの家遊びに来たような感覚でした。

ゆったりとした雰囲気の中、利用者の方たちは、星・森・絵本・家、を、短時間ででしたが身体いっぱいを感じ、気持ち良さそうな表情と笑顔を見せてくれました。



多摩地域施設交流会に行ってきました！

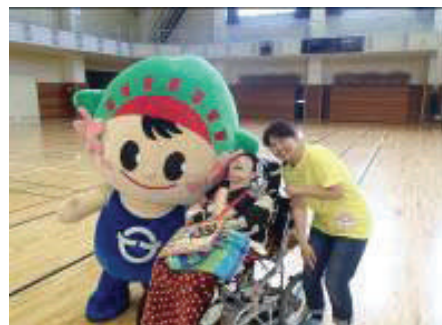
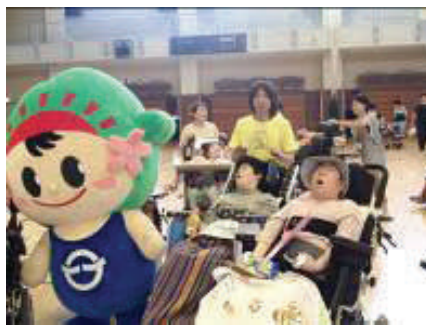
通所 島田 久雄

5月15日（金）に多摩地域施設交流会が立川市泉体育館で行われました。

今年は、15施設132名の参加でした。通所からは4名の方が参加しました。

今年も自己紹介パネルを作り、皆に自己紹介をしてから、10チーム対抗で名刺交換をしてじゃんけん勝負をする「名刺でじゃんけんぽん」をしました。また、フォークダンスでは、府中療育センターから2名の方がお手本として大勢の前で踊りました。日の出町イメージキャラクター「ひのでちゃん」と記念撮影をしたり、最後は皆で「YMCA」を踊りました。

他の施設の方とたくさん交流できて、楽しく過ごすことができました。

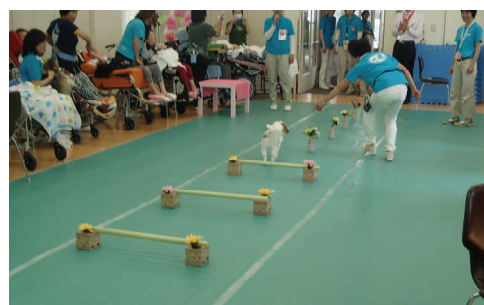
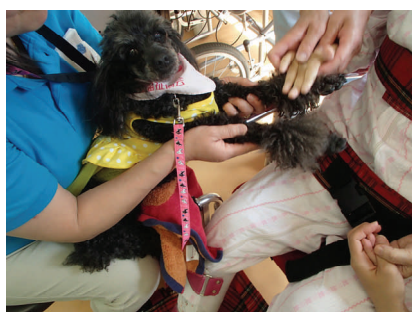


どうぶつとふれあう会

4月22日（水）、あじさい館多目的室にて、今年度第1回目の「どうぶつとふれあう会」が開催されました。この会は動物と触れ合うことにより、利用者の情緒的安定と生活の質の向上を目指すことを目的に年4回行われています。今回は、10人のボランティアさんと8匹のワンちゃんたちが来てくれました。

ふれあいタイムでは、初めは緊張した表情をみせていた利用者の方にも次第に笑顔がみられたり、犬に触れるとうつむいていた顔を上げたりと、触れ合いを楽しんでいる様子でした。

パフォーマンスでは、ワンちゃんたちが棒跳びや花園のお散歩を披露してくれ、利用者の方たちは犬の動きに視線を向けたり、周囲の声や歓声に穏やかな表情をみせたりと、楽しんでいました。



平成27年度センター運営方針説明会

事務次長 永山 豊和

5月10日（日）、あじさい館多目的室において、センターの平成27年度運営方針説明会を開催しました。この会は、利用者の家族の皆様へ、センターの方針や当該年度に実施を予定しているトピックを説明するもので、毎年度開催しています。今年度の議題は、運営方針とともに、センターの全面改築計画の進捗状況についてでした。

当日は、多くの家族の皆様にご参加いただきました。ご家族からは、全面改築に関しては、改築案では災害時にどのような対応が考えられているのか、移転先の土壌調査等のスケジュールは予定どおりに進んでいるのか、改築後のセンター周辺の建物はどのようなになる予定なのかなどのご質問をいただきました。

また、職員の質の向上にむけた取組に関しては、認定看護師等の取組は良いことなのだから、もっと家族等にもわかるように知らせることを検討して欲しいというようなご要望も出されました。

センターとしては、いただいたご意見をセンター内で周知し、日頃の業務に反映していきたいと考えています。



〒183-8553

東京都府中市武蔵台2-9-2

東京都立府中療育センター

電話 042 (323) 5115

Fax 042 (322) 6207

--*ホームページもご覧下さい*-*-*

[http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/](http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html)

[fuchuryo/index.html](http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html)